



なつみ
菊地 夏光さん

旭川工業高等学校建築科の2年生。
鷹栖町からバスを乗り継ぎ、学校ま
で通っている。

「登下校は大変ですが、勉強はとて
も楽しく、毎日が充実しています」と笑
顔を見せる。

CONTENTS (目次)

| | |
|--|----|
| きら★びと | 02 |
| 特集 ふるさと共育 ～鷹栖町をもっと好きになる～ | 04 |
| たかす総合型地域スポーツクラブの 設立に向けた取り組み | 08 |
| 農産加工センター 四季の里 de 加工体験 | 09 |
| リアムさんのコラム Coffee Conversation 町長コラム「コロナウイルス感染症」と「あったかす」 | 10 |
| 地域おこし協力隊活動だより | 11 |
| Topics (まちのニュース) | 12 |
| Information (今月のお知らせ) | 14 |
| カレンダー、人口・世帯情報など | 18 |

10

2021 No.841



今月のきら★びとでは、

「第21回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会」の木材加工部門で、最優秀賞を受賞した、菊地夏光^{なつみ}さんをご紹介します。

幼少期から、ものづくりが好きだった菊地さん。「母に手芸を教えてもらったり、放課後児童クラブで木工品を作ったり、『ものづくり』に楽しみを感じていました」と話します。

その後、好きな「ものづくり」を、より専門的に学びたいと、旭川工業高等学校建築科に進学。

現在は、建築物の構造や設計、工事手順のほか、測量の方法や建築資材、図面の書き方など、さまざまな知識を身に付けるため、日々勉強に励んでいます。

そして、「自分の将来を考えるために、いろいろなことに挑戦してみたい」と、自ら同大会への出場を決めた菊地さん。

出場した木材加工部門には、道内各地から17名の高校生が参加し、技術や技

能を競いました。

菊地さんは、初出場ながら、出来栄えや精度が評価され最優秀賞を獲得。11月に神奈川県で開催される全国大会と、令和4年に開催予定の「若年者ものづくり競技大会」への出場権を手に入れました。

今大会の課題作品は、屋根の幹を支える部分の製作。3時間以内に、木材をノコギリで加工し、カナヅチなどで部品を組み立てます。

大会に向け、昨年の冬から約半年間、放課後や土日を利用して、練習を重ねた菊地さん。「ノコギリを使った経験がほとんどなく、木材を真っすぐ切る練習から始めました」と話します。

その後、製図や木材を加工する部分に色を付ける「墨付け」や、組み立てなどを練習し、技術を磨いていきました。

「大会では、緊張と焦りで、今まで失敗したことがない『墨付け』でミスをしてしまいました。『落ち着い

て取り組めば大丈夫』という先生のアドバイスを思い出し、修正することができました」と振り返ります。

旭川工業高校の生徒が最優秀賞を受賞するのは18年ぶりの快挙。

「7割程度の完成度だったので、とても驚きました。練習が大変だった分、その努力が身になったと感じました」と笑顔を見せます。

全国大会の課題は、作業台として使われる「ウマ」。木材を斜めに加工し、カンナで削るなど、北海道大会より難易度が高い課題ですが、「入賞目指して頑張りたい」と意気込みを語ってくれました。

「『自分で作った』という達成感を味わうことができるところが『ものづくり』の魅力。今後さまざまなことに挑戦し続け、自分の目標を明確にしていきたいです」と話す菊地さん。

「ものづくり」に対する真っすぐな姿勢が、菊地さんの手掛ける作品の魅力を高めているでしょう。



— 特集

きょういく
ふるさと共育

～鷹栖町をもっと好きになる～

私たちが生まれ、育ち、暮らす鷹栖町。

皆さんは、この町のことが、どのくらい好きですか。

「ふるさと鷹栖」をより好きになってもらいたいとの思いで、
令和2年度から、「ふるさと共育」の取り組みを進めています。

日本全体で少子高齢化が進んでいる中、地方から大都市への人口流出による、地域力の低下が問題視されています。

そのような状況の中で、将来にわたり、活力のある地域社会を実現していくためには、地域に愛着を持ち、魅力を理解して、高めていく人材の確保・育成が必要です。

鷹栖町では、第8次鷹栖町総合振興計画（以下、「総合振興計画」）の中で、「人間力を高める人づくり」の実現を目指しており、町ならではの特色を生かした「ふるさと共育（※）」を展開することで、ふるさと鷹栖に愛着を持ち、地域と関わりを持ち続ける人材の育成を進めています。

※一方的に「教える↓教えられる」関係性ではなく、「お互いに尊重し合って、共に関わり合うこと」で、共に学び、共に育まれる」という視点を大切にしたい、という意味が込められています。

「何もない」とは 言わせない

平成30年度から令和元年度にかけて、総合振興計画策定のための住民ワークショップやヒアリングを実施しました。

その中では、「住民自らが鷹栖町の良さを認識し、PRすることでも人を増やす」「子どもの頃から鷹栖町の良さを知って愛着を持って、将来Uターンなどにつながる」など、「鷹栖町の良さを知ってもらうことが大切」「郷土愛を育むような取り組みが必要」という意見が多く上がりました。

また、近年、鷹栖町に魅力を感じ、移住する人が増加している一方で、住み続けている住民の中には、「鷹栖町には何もない」と感じている人もいます。

「町や地域の良さを知る

機会がない」ということが、「何もない」と感じる原因の一つであると考えています。

さらに、町内の小中学校では、地域とともにある学校づくりとして「コミュニティ・スクール」の取り組みも始まっています。

行政と地域住民が協力しながら、子どもたちが地域と関わり、町を知る機会をつくることで、魅力を伝えていかなければなりません。

そして、「私たちのふるさとは何もない」と言う若者が多いともいわれ、おろ、さまざま角度から、「ふるさとを改めて見つめ直す」ことの必要性が高まりを見せています。

私たちが目指している姿

令和2年度からスタートした「鷹栖町社会教育アクションプラン(第1次)」

このプランでは、社会教育の役割を見つめ直し、町民の幸せづくりと持続可能な社会教育の実現を目指して、5つのカテゴリごとに取り組み方針を定めています。



子ども

**たかすで学び、たかすを愛した誇りを胸に、
自分の未来を力強く切り開く子どもたち。**

ふるさと鷹栖で学び、体験、活動したことが糧になり、目まぐるしく変化する現代社会に負けず、夢と希望にあふれた未来を、力強く切り拓いていける子どもたちを育みます。



大人

**子どもたち“が”誇れるまちを、
子どもたち“に”誇れるまちを、作り上げるのは私たち。**

町の魅力を伝えていく大人自身が、町のことを好きでなければ、子どもたちにも伝わりません。生涯にわたり学びながら、知識や経験を地域に生かし、子どもたちへ町の魅力を伝え続けていける大人たちを育みます。

■「ふるさと共育」の役割

大人が子どもに「教える」だけでなく、大人も子どもも「共に学び、共に育み」ながら、先人たちが築き上げてきた鷹栖町に誇りを持ち、ふるさとをより好きになってもらい、「住み続けたい、応援し続けたい」という気持ちを育むことが「ふるさと共育」の役割です。



鷹栖町
ホームページ

重点的に
取り組んでいる
ふるさと共育の事業を
紹介します。

ふるさと共育の取り組み

令和2年度にスタートしたふるさと共育。就学前から中学校卒業前までを「子ども版」、高校生以降を「大人版」として定義し、全ての世代に切れ目なくアプローチしていくために、各部署と連携しながら、ふるさと鷹栖を知り、学び、感じられる取り組みを展開していきます。

子ども版

—小学校—

以前から町内施設の見学、田植えや稲刈りなどの農業体験、町内団体との交流、オサラッペ川の水質調査などを実施しています。

令和4年度以降は、現在実施している取り組みをベースにしながら、地域人材を生かし、児童が地域住民との関わりの中で、町の歴史や自然



環境などの地域資源について、より深く学ぶことができる機会の創出を目指します。

—中学校—

1年生では、基幹産業である「農業」をテーマに学習を進めています。8月には、旭川工業高等専門学校による出前授業を実施。「電気電子」「制御情報」「物質化学」の3つのテーマで、科学の力を活用した農業技術について学びました。

2年生では、「しごと」をテーマに、町内企業による企業説明会の開催や活躍する町民との交流などを行う予定です。



大人版

—高校生プロジェクト—

町外の高校に通う生徒が多く、自然と町との関わりが薄れてしまうことが、課題として挙げられています。

高校生プロジェクトは、町について知り、自らの思いを企画立案し、実践することで、町とより深く関わりを持つことを目的に実施しています。

昨年8月から活動を開始し、現在は6人のメンバーで、プロジェクトの実践に向け、活動しています。

—ふるさと体験活動—

鷹栖町の自然や歴史を知り、体験してもらうことで、改めて鷹栖町の良さを知ってもらうことを目的に、ふるさと体験活動に取り組んでいます。

「鷹栖の石で勾玉づくり」「砂金堀り体験」「オサラッペ川川下り」など、さまざまな体験活動を実施しています。





中学3年生の
取り組みを
ピックアップ!

中学3年生「鷹栖町の未来」

8月中旬から9月上旬にかけて、「鷹栖町の未来」をテーマに、「パレットヒルズ」「買い物」「人口減少対策」「スポーツを通じた交流」「交通」の5つについて、町の取り組みなどを調べる活動を行いました。

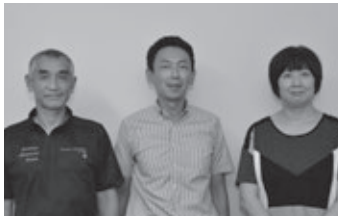
グループごとにアンケートやインタビューを実施し、その結果を基に、生徒自らが、より良いまちづくりに向けた取り組みの提案を動画にまとめました。

生徒の成長を実感

地域との関わりや自分と周りとのつながりを知ることは、自身をさらに理解するためにとっても重要です。

ふるさと共育の活動の中で、普段積極的に人と関わらない生徒が、自ら進んで活動に参加する姿や、人との関わりの中で発揮した力など、生徒の新たな一面を見ることができました。

また、今回の学習をきっかけに、まちづくりに関わりたいという思いを抱いている生徒もいるなど、自己肯定感の向上にもつながっています。



金田先生・熊谷先生・水上先生

町の良さを再確認し、進学や就職を機に町を離れても、ふるさとを忘れず、愛情を持ち続けられるような生徒の育成につながっていきたいです。

子どもたちと もっと関わりたい

鷹栖町の福祉について取材を受けた織田妙子さんにお話を伺いました。

コロナ禍のため、子どもたちとの関わりは外で会った時のあいさつ程度で、ほとんど機会がありませんでした。

今回の学習の中で、私たち高齢者やふるさと鷹栖町の未来を真剣に考えてくれていると感じ、とてもうれしかったです。鷹栖の良さを知り、感じることで、一人でも多くの子どもたちが、町で暮らし続けてくれるといいなと思いました。



取材を受ける老人会の皆さん

鷹栖町の魅力に
気づくきっかけ

始まったばかりの「ふるさと共育」。

「子ども版」では、令和6年度末までに、小中学校9年間での取り組みのプログラム化を目指しています。

また、今後の長い人生をしっかりと見据え、町を好きになり、知りたい、関わりたいと、感じる事ができるよう、取り組みを進めていきます。

進学・就職し、鷹栖町を離れても、まちづくりに関わり、応援してもらえることが最終的な目標です。

鷹栖町を愛し続けてくれる人が増えれば増えるほど、鷹栖町はより多くの「笑顔」と「幸せ」であふれるのではないのでしょうか。

鷹栖町では、教育委員会のふるさと共育の取り組みだけではなく、各部署が連携し、ふるさとを学び、好きになれる事業に取り組んでいきます。